第６学年１組　図画工作科学習指導案

場所　６年１組教室　　指導者　安田　晶子

１　題材名　音の絵（「絵に表す」）

子どもたちはこれまで低学年「せんのぼうけん」で擬態語や擬音語などを基にかいた線から想像を広げたり、「音づくりフレンズ」で音がなるものづくりを経験したりしている。しかし、音そのものを表現したことはなく、「音が何色か」「その音はどんな形で表せるか」と考える学習は初めてである。写実的表現を好む子どもが多くなる6年生だからこそ、自分の視覚以外の感覚も生かして表現するたのしさや充実感を味わってほしいと願う。

しかし、「自由にどうぞ」と言われただけでは、動き出せない子どもがいる。つくるもの、描くことを決めて動き始めたとしても、目新しいことを思い付いたり試したりすることなく、自分にとって無難な「できた」へと向かう子どももいる。物事を見通す力が高かったり、言葉の力を獲得していたりすると、その傾向が強くなることがある。また、発達段階等から、早い段階で諦めようとする子どももいる。

そこで本題材では、造形活動に遊びの要素を取り入れながら、学習過程や場づくりを工夫する。全ての子どもがもつ、遊びを発展させながら学ぶ力を引き出すためだ。その中で子どもたちが、材料や用具の造形的多様性および仲間の多様性を感じとることができれば、集団の中で自己を表現することへの不安感も軽減できる。そして、遊ぶように試行錯誤をたのしみ、自分の見方や考え方を広げながら、創造活動へと学びを深めていけるようにする。そうして、全ての子どもが、つくりだす喜びを味わうことを目指す。

２　題材について

⑴　本題材は、身近な音から形や色を思い浮かべ、表したいことを見付けて絵に表す学習活動である。イメージを広げながら、動きやバランス、色の鮮やかさなどに気付き、形や色、構成等の感じから、どのように主題を表すかについて考え、つくりだす喜びを味わうことをねらいとしている。

⑵　子どもたちはこれまで、水彩絵の具やクレヨン、色鉛筆などの描画用具を工夫して使いながら、イメージをふくらませて絵に表す活動を積み上げてきている。6年生になってからは、「この筆あと、どんな空？」で、筆だけを使って表し方の工夫を考えて自分の空をテーマに描いた。本単元では、筆だけでなくスポンジやブラシ、網、ローラーなど、これまでの経験を生かして用具を選び工夫して使いながら、自分が表したい音を描いていく。また、鑑賞においては、これまで自他の作品のよさや特徴について考えたり、アートカードを使った鑑賞遊びを経験したりしている。ただ、本題材の終末で設定しているような、自分たちの作品を使っての鑑賞遊びは、初めて取り組む活動である。

⑶　本題材に関する子どもの実態は、次の通りである。（調査人数３５人）

①「図工の授業において、絵を描くことはたのしいか」という質問に対して、「そう思う」と肯定的に答えた子どもは、計２８名だった。理由として、「絵を描くこと自体が好きだから」「工夫して絵を描くことが楽しいから」「自分の感情を表現できるから」といった前向きな意見が挙げられていた。「そう思わない」と答えた子どもは計７名で、理由は「下手だから」「好きだけど、仕上がった後に見ると他の人と比べてしまって落ち込むから」といった理由がほとんどであった。他者との比較によって自分の絵を肯定的に捉えられずにいる子どもが５分の１程度いることが分かった。

②「絵を見ることはたのしいか」という質問に対しては、肯定的な回答が２５名で、「工夫や特徴を探すのが楽しい」「作者の思いを考えるのは面白い」といった理由が多かった。「そう思わない」と答えた子どもは、計６名で、「絵を見ることに興味がない」という理由だった。

３　題材の目標

⑴　身近な音を感じながら形や色を思い浮かべ、イメージを広げて絵に表すときの感覚や行為を通して、動き、バランス、色の鮮やかさなどに気付くとともに、表現方法に応じて材料や用具を活用し、水彩絵の具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができるようにする。

⑵　身近な音を聞いて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、構成の感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えるとともに、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。

⑶　主体的に身近な音を感じながら形や色を思い浮かべ、イメージを広げて絵に表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうことができるようにする。

４　指導計画（７時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1　身の回りにある音の感じから形や色を思い浮かべ、自由に表すことを試す。	○　絵本の鑑賞を通して音から感じたことと色・形とをつなげた言葉を引き出すことで、音を色・形とで表現する活動への見通しをもつことができるようにする。	【思】 音を聞いて感じたことや想像したことから、形や色の感じなどを考えている。 （観察・振り返り）
2 ～ 5	2　音の感じに合わせて材料や表し方を選び、工夫して表す。	○　手が止まっている子どもには、仲間とつなぐ、イメージを引き出す、試しに描いてみるよう促すなど、支援を個別に判断することで、主体的に表現活動へ向かえるようにする。 ○　子どもが思いに沿って用具を主体的に選べるようにするため、用具を活動場所の近くに用意し、すぐに取りに行けるようにする。 ○　表現活動の中で、自分なりのこだわりや工夫をしている姿を価値付けすることで、一人一人が自分に合った表し方に進めるようにする。	【主】主体的に表現する活動に取り組んでいる。 （観察・振り返り） 【技】 表し方を工夫して表している。 （作品・観察・振り返り） 【思】 形や色、構成の感じなどを考えながら、どのように表すかについて考えている。 （作品・発言・振り返り）
6 ・ 7	3　班ごとに自分たちの作品を用いて鑑賞遊びに取り組む。	○　一人一人が感じた音や雰囲気から作品の特徴を捉えていくよう促すことで、それぞれの見方を尊重し合いながら、鑑賞することができるようにする。 ○　特に本時の学習では、色・形を基にイメージを膨らませながら鑑賞する姿を価値付けすることで、「赤色がある」など見えている色や形だけではなく、色・形を根拠に雰囲気や動きなどイメージの共通点を探すことを、鑑賞の視点として活用できるようにする。（本時６／７）	【主】主体的に鑑賞する活動に取り組んでいる（観察・振り返り） 【思】 作品の造形的なよさや特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている （発言・振り返り）

５　本時の学習

⑴　目標

作品の共通点を探すことを通して、自分の見方や感じ方を働かせ、自他の作品のよさや特徴などについて感じ取ったり考えたりする。

⑵　展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
8	1　話し合いにおいて大切にしたいことを考える。 ⑴　活動の流れを知る。 ⑵　困りそうなことを予想し、鑑賞の話し合いにおいて大切にしたいことを考える。	○　どんな展覧会のテーマになるのか検討もつかないけれど、一人ではないからきっとできるだろう。 ○　前の鑑賞遊びでは、共通点を見つけるとよかったな。 ○　前の鑑賞遊びでは、絵をつなげてストーリーをつくっていた班もあったな。つながりを考えるのもよさそうだ。 ○　見えている色や形ではなく、そこから雰囲気やイメージまで考えると、深みのあるテーマになりそうだ。
20	2　自分を含めた班の仲間の作品を鑑賞する。 ⑴　友達の作品を見て、自分が受けた印象を付箋に書いて理由を交流する。 ⑵　作品から共通するテーマを考える。	○　この絵からは、悲しい感じがする。付箋に書いておこう。 ○　付箋に書くと、それぞれの見方や感じ方が違っていることがよく分かるな。似たものもあるよ。 ○　この絵は、薄い色づかいで描かれているから、幻想的な感じがする。 ○　自分の作品にいろんな見方が出てきた。面白いな。 ○　班の友達が絵と絵のつながりを話し始めた。なら、その続きになる絵はどれかな。 ○　絵に水色の線があるから、今の話に涙の場面を付け足してもいいかもしれない。 ○　この絵とこの絵には、両方青色が使われていて、涼しい感じがするよ。涼しいというテーマにならないかな。 ○　でも、こっちの絵は黒色と赤色で、涼しくはないから、一緒のテーマにはならないんじゃない。 ○　朝と夜とで、時間帯が違う、1日の流れにしてみようか。 ○　そうすると、この黄色が多い絵は昼かな。
7	3　テーマを紹介し合う。	○　この班のテーマは、見ただけでは分からないな。なんでこのテーマなのか、聞いてみたいな。 ○　ストーリーをつくってテーマを考えたんだ。面白いな。
10	4　活動を振り返る。	○　自分の作品に対して、自分が考えていなかったイメージを言ってもらって、たのしかった。 ○　友達の作品の表し方の工夫が素敵だなと思ったら、いろんな音が聞こえてきて、面白くなった。 ○　はじめは、テーマが決まるか不安だったけど、だんだんたのしくなって、4枚の絵がつながったからよかった。 ○　自分たちの班のも考え直したくなってきた。

振り返りとしての鑑賞遊びの授業です。子どもたちは、自他の作品のよさや特徴を捉えながら、対話によって、友達との見方や感じ方の違いを調整して、自他の作品に新たな価値を見いだしていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

○　それぞれの見方や感じ方、作者の意図を話したり聞いたりしながら、「ミニミニ美術館の展覧会テーマ」をつくっていく活動であることを知った子どもたちに、鑑賞遊びの経験を想起させ、難しそうなところ困りそうなことがあるかどうか尋ね、その解決法を想起させ、それを全体で共有する中で、めあてを設定する。

友達の絵を見てどんな音が聞こえるか感じとり、共通点やつながりを見つけよう

○　自分たちの絵2枚を見て印象や共通点を全体で出し合うことで、描かれている色、形を基にイメージを膨らませていくとよいことに気付けるようにする。

○　作品のよさや特徴を見つけようとする姿を価値付けすることで、互いの作品を尊重しつつ、それぞれの見方や感じ方の違いを認め合いながら対話を進めることができるようにする。

【教材・教具】
○　作品
○　付箋紙
○　テーマを書く紙とペン
○　振り返りシート

○　作者の意図を尋ねる前に、友達の作品に対する印象やどんな音が聞こえたかを付箋に書き、作品のまわりに貼っていく活動を設定することで、全員が班の友達の絵への感じ方を表出できるようにするとともに、1枚の絵に対して、一人一人違った見方をしていることに気付くことができるようにする。

○　自分の見方や感じ方でイメージを広げていく姿を見取って価値付けし、絵から音や動き、使われている色のイメージや全体の雰囲気などを感じ取った時、共通点やつながりを見つけやすいという意見を引き出すことで、作品を見てイメージをもつことを意識できるようにする。

○　作品からイメージを捉えづらいと感じている子どもに対しては、絵の部分的なところからよさを見いだす見方を促したり、「どんな音から発想して描いたか」など子ども同士で伝え合えるようにしたりすることで、自分なりの見方・感じ方を働かせて友達の絵を見ることができるようにする。

○　全ての班のテーマ及び作品を見て回る時間を設定することで、その班なりの意味付けを基にテーマを設定していた班に対する「なんでこのテーマに？」という疑問を引き出し、その班を指名して全体への発表につなげるようにする。

○　自分の作品のイメージが、班の友達によって広がったことを肯定的に受け止めている考えを取り出して、自分の見方が深まったことだけでなく、一生懸命描いたからこそ友達のイメージが膨らんだことを価値付ける。

○　次回、テーマを再考したい、絵を背景として登場人物を描きたいなどの思いを受けとめ、次時への見通しをもたせるようにする。

【評価】
造形的な見方や感じ方を働かせ、自他の作品のよさや特徴などについて感じ取ったり考えたりしている。（発言・振り返り）